

長山中学校区施設一体型小中一貫モデル校に関する意見聴取の状況について

1 保護者からの意見聴取

(1) 松葉小学校・長山小学校・長山中学校PTA役員との意見交換会

令和2年11月20日（金） 長山中学校2階図書室

	主な意見と質疑応答の内容
1	・施設一体型小中一貫校になった場合、運動会等の行事は、小学校と中学校で一緒にやることとなるのか。 ⇒施設が一緒だから行事も同じにするというわけではなく、ニーズに応じて対応していこうと考えている。
2	・長山中学校に小中一貫校が設置される場合、松葉地区と長山地区のコミュニティセンターが統合されるのか不安である。 ⇒これまで、長戸小学校と北文間小学校が統合により閉校となっているが、それぞれコミュニティセンターは維持されている。小中学校の統合が、その地域のコミュニティセンターの統合に直接は結び付かないと考えている。
3	・小学校の建物が無くなった場合、地域住民の避難所、災害時の拠点、防災拠点としての役割がどうなるのかが不安である。 ⇒松葉・長山地区については、地震による避難を想定しているが、地盤の関係から比較的被害は少ないと想定されるため、コミュニティセンターを有効に活用する方向ではないかと考えている。
4	・少子化が進み、教員配置数が少なくなった場合、専科の先生が周辺地区を掛け持つような例はあるのか。 ⇒家庭科の先生が非常勤として掛け持ちしている例がある。今後、教員数が減っていった場合、施設一体型であれば、小中学校の両方の免許を有する先生を兼務発令することで、移動なしで小学校と中学校の両方の授業ができるというメリットがある。
5	・施設一体型小中一貫校の設置を検討している2030年度には、もっと児童生徒数が減ってしまい、さらに統合という検討もあるのではないかと。 ⇒この松葉・長山地区は少子化のスピードが速いため、早めに対策をしなければならない。小学校、中学校の教職員を一体にして学校を運営することによって、小規模校化のデメリットをプラスに変えられると考えている。
6	・6プラス3ではなく、9年間というもう少し長いスパンでの教育というカリキュラムを想定しているのか伺いたい。 ⇒小中一貫教育に関しては、子どもたちの9年間の成長を見据えてカリキュラムを組んでいる。前期4年、中期3年、後期2年の4・3・2で龍の子人づくり学習カリキュラムは作成しており、それに従って小学校、中学校において学習を進めてもらうことになっている。
7	・今回、小学校と中学校が一体になる中で、いかに特色を生かすかということであれば、例えば、複式学級も考えられる。小学生だけではなく、そこに中学生が入って年下の面倒を見るということによって、お互いの人間関係の構築、人の育成、そういうカリキュラムも考えられると思う。 ⇒施設一体型であれば、校内に6歳から15歳までいることになるので、子どもたちは、非常に触発

	され、刺激を受けると思われる。小学生が中学生の姿を見ることで憧れを抱いたり、規範意識が育つなど、たくさん良い面があると考えられる。今、小学校は6年生まで、中学校は1年生から3年生までとなっているが、先行事例にもあるように、1年生から7年生、8年生、9年生という名称に変えていくかもしれない。そのようなことについて、今後、皆様の御意見を頂きながら、9年間での融合的、連動性のある教育活動も大いに組み入れていきたいと思う。
	・世代間の分断がかなり進んでいると思うが、その解消にも役立てていただきたい。
8	・河内町のかわち学園は、この小中一貫教育なのか。 ⇒施設一体型で小中一貫教育を行っており、義務教育学校ということになる。義務教育学校は、校長先生が1人、教頭先生が2人になるが、この地区の規模であれば義務教育学校という選択もあると考えており、今後、研究していきたい。

(2) 長山中学校PTA役員との意見交換会

令和3年7月10日（土） 長山中学校2階図書室

※長山中学校区における施設一体型小中一貫校整備について説明の後、質疑応答の時間を設けたが、出席者からの意見・質問は無かった。

(3) 松葉小学校・長山小学校・長山中学校の全保護者への説明文書の配布と意見募集

・文書配布日：令和3年10月14日（木）

・意見募集期間：令和3年10月14日（木）～10月29日（金）

	主な意見の内容
1	・子どもが少なくなっており、小中が同じ校舎になることは、先生方の負担なども考慮すると仕方がないと思う。運動場（屋外）が手狭な印象もあるが、体育館が新しく広めに建設してくれればよいと思う。コンパクトになる分、子どもたちのケア（学習、生活）が一貫して行えるよう期待したい。また、災害時のお迎えや授業参観なども調整しやすくなるとよい。受験時に開校を迎える子どもたちへの細やかなフォローをお願いしたい。
2	・基本的には賛成であり、建物は生徒を収容できると思う。問題は、グラウンドと体育館だと思う。休み時間や放課後に子どもたちが伸び伸びと遊べるように考慮してほしい。小学生が騒音などを気にせずに遊べるようにお願いしたい。中学生も思い切り好きな部活動ができるようにしてほしい。子どもたちの外遊びや運動の機会を奪わないようにしていただきたい。

(4) 松葉小学校・長山小学校の保護者（希望者）との意見交換会

令和3年11月7日（日） 長山中学校2階図書室

	主な意見と質疑応答の内容
1	・資料に「新教科創設」とあるが、どのような教科を創設するのか。 ⇒新教科については、まだ決まっていない。先進的に取り組んでいる地区の例を参考にしながら、どのようにしていくか検討している。近隣では、英語を主体として行っている学校もあるので、外国語と英語を組み合わせながら、教育課程の一部に一部に位置付けられたらよいかなと考えている。

2	・資料に「指導事項の学年・学校段階間の入替え・移行」とあるが、どのような意味か。
	⇒小学校6年生で行っているものが中学校1年生のスタートで被るものがあったりする。そういうものを取ってしまうのが学年間の入替えであったり、早めに始めることも可能になる。今、小学校1・2年生では書き方といって硬筆から始めるが、そのような学年の方が伸び伸び筆を使うのだから、小さい頃から書をやった方がよいと言う先生もいる。そのようなことを前倒しで行うということであれば、それも当てはまると思う。
3	・新しい校舎を建てて、そこに中学生が入り、その後、古い校舎を改修し、また、そこに移るということでよいか。
	⇒現在のところ、そのように考えているが、劣化度調査の状況によっては変わる可能性もあると考えている。
4	・松葉小学校と長山小学校は、その後どうなるのか。グラウンドが無くなってしまったら、少年野球はどこでやったらよいのか。
	⇒人口減少社会の中で公共施設を維持していくことは、市の財政への負担が大きいため、原則として、学校として必要がなくなった施設については、売却するとか、取り壊して民間に譲渡するというようなことになると思う。市として使い道があるということであれば残すが、基本的には違う用途で使われるということになると思う。グラウンドについては、新しい小中一貫校の敷地や北竜台公園のグラウンドなどを使ってもらえる形になるかと思う。
5	・長山中学校区の小中一貫校では、スクールバスは出ないということになるか。
	⇒長山中学校区については、割とコンパクトな学区になるので、基本的にはスクールバスは出さない方向になると考えている。
6	・9年間は長いように思われるが、同じ施設の中で教育を受けられるというのは、中1ギャップを考えると非常に良いのかなと思う。コロナ禍において、オンライン授業とかICTの重要性が見直されてきた。市内の小中学校のWi-Fi整備状況と新しい長山中学校区の学校のICT環境の整備についてどのように考えているか伺いたい。
	⇒昨年度、一人一台分の端末、約5,700台を調達した。その際、一人一台になると通信量が大きくなるため、Wi-Fi環境についても整備し直した。長山中学校区の小中一貫校では児童生徒数も増えますので、それに耐え得るような環境整備をしていかなければならないと考えている。
7	・ICTに関して、学校による差がここ数年で広がってきている中、高校で高いレベルを求められてしまうので、この小中一貫校の中で新しいICT教育を考えていただきたい。
	⇒ICTに関して本市でも頑張ってはいるが、学校ごとに差が出ている現状はある。小学校1年生を教える先生は、学校のしつけや生活面、学習面のことをきちんとしつけなければならないので、ベテランの先生が多い傾向にある。かたや今、急に求められているのはリモート学習で、ICTでやりなさいと言われている。これを同時にやるのは、なかなか難しいところがあり、本市でも今、苦戦している。ただ、義務教育学校になると、職員間のやり取りができるようになる。例えば、この時間は算数をICTを使ってリモートでやるとなったら、他の先生が行ってやるというようなことが可能になるので、すごくフレキシブルに職員間の往来ができるようになる。
8	・運動会などの行事は、小中一貫校になったら、小学校も中学校も合同でやるのか。また、小学生から部活動もやるようになるのか。

	⇒部活動については、大会に参加するのが義務教育学校だけでなく、他の市町村立中学校もあるので、その参加基準に照らし合わせて実施するようになると考えている。他の地区の義務教育学校では、部活動の手伝いや見学には行ったりするが、練習に参加するということはないと聞いている。学校行事については、他の地区では、1年生から9年生までが集まって行った学校もあると聞いている。他には、1年生から4年生まで、5年生から7年生まで、8・9年生の3分割で行う学校もあるし、従来の小学校の1年生から6年生まで、中学校の7年生から9年生までに分けて行う学校もある。いろいろなやり方があるので、学校規模やグラウンドの広さに応じたものができるように検討していきたい。
--	---

2 地域住民からの意見聴取

(1) 長山地域コミュニティ協議会役員との意見交換会

令和3年11月27日（土） 長山コミュニティセンター

	主な意見と質疑応答の内容
1	・小中一貫校というのは、全国的にも少子化の中で考えられているわけだから、それはそれでよいと思う。ただ、子どもたちが伸び伸びと勉強ができる環境を作っていかなければならないと思う。今回提案されている小学校の運動場は、一般的に小学校として立地されているものと比較してどうなのか。 ⇒学校施設を整備する際、クラス数に対してこれだけの面積が必要だという文部科学省の基準がある。これは、小学校と中学校が合同で使うグラウンドになるので、面積上の問題は無いと考えている。授業の時間割りの組み方を工夫したり、時間をずらすなどで、体育の授業などはやっていけると考えている。計画上の図面では、現在のテニスコートの位置に小学校の建物を増築する形になっているが、テニス部の活動が継続できるようにしたいと考えている。例えば、若柴公園のテニスコートの活用とか、いろいろなことを踏まえながら検討している。また、図面には、奨学生用の遊具が描かれていないが、施設配置の中で子どもたちが伸び伸びと活動できるような空間を整備していきたいと考えている。
2	・協議会側としては、跡地をどうするかということに非常に興味がある。廃校になり、誰も何も使わないということでは、住民としては非常に心配だ。具体的にはこれからだと思うが、今考えていることは何かあるか。 ⇒本市でも人口が減ってきている状況で公共施設を維持することが大変厳しくなっている。跡地が出た場合、まず、公共施設として用途があるか検討する。その後、公共施設としての用途が無ければ、まちづくりに沿った形で民間で使ってくれる所があるか、サウンディングなどの調査を入れる。その上で民間の提案など、いろいろな話を聴きながら検討していく形になる。
3	・跡地利用について、どのような要望があるか、住民アンケートとか、このような形で意見を聴く機会を作るのか、今のところ考えていることはあるか。 ⇒公共施設の跡地利用については、地元の方の意見を聴く機会が必ずある。そのときに、いろいろと提案を頂きたいと考えているが、基本的に学校として使わないものをそのまま残すという考え方は今のところはないので、まちづくりに沿った形で有効に活用したいと考えている。
4	・この地区は高齢化が進んでいるが、縦割りではなく、学校施設と高齢化の施設という考え方を広

	げていくべきだ。時代によって考え方が変わるわけで、小学生が増える場合もあるから、そのようなときに、松葉小や長山小の所に教育施設の増設なども考えておかないと、将来困ることになる。 ⇒高齢化の後に新たなベビーブームが来て、学校施設が足りなくなるかもしれないということは想定しづらいが、考えておく必要はあると思う。ただし、それまでにその用地を取っておくということは、難しいと思う。
5	・全体として流動化できるような構造にしておけばよい。京都御池中学校という複合施設があるが、老人施設、学校、幼稚園、商業施設、事務所、防災設備が入っている。空いた土地の活用については、民間任せではなく、市も入ってやっていかなければならないと思う。 ⇒学校の跡地活用については、直近で城南中学校と愛宕中学校が統合され、城南中学校の敷地が跡地になる。市としては初めて市街化区域の跡地を有効活用するため、手続きを進めているところであり、それが良い例になると思う。そういうものを参考にしながら、この地区のまちづくりに合った形で土地利用が図られるように、御意見を伺う機会を設けていくような形になる。
6	・コミュニティセンターの考え方は、どのように変わるのか。小学校区ごとに設置するというような考え方があると思うが。 ⇒これまで、北文間小学校や長戸小学校が統合により無くなっているが、コミュニティは無くなっておらず、その地区のコミュニティ活動は続いている。長山・松葉地区においても、引き続きコミュニティ活動を続けていただければと思う。
7	・長山コミュニティセンターの建物が狭く、駐車場も狭い。コミュニティセンターを長山小学校に持っていくという考え方もあるかもしれない。 ⇒長戸小学校は城ノ内小学校と統合しているが、すぐ近くの長戸コミュニティセンターが移転する予定がある。長山コミュニティセンターを長山小学校の敷地に移転することも考え方としてはあると思う。
8	・いずれにしても、住民の意見を聴く場を設けながら進めていくのだろうと思うし、そのようにしてもらいたい。 ⇒間違いなく皆さんの御意見を伺う場を設けらると思うので、その際は、忌憚のない御意見を頂きたい。

(2) 松葉小学校区協議会役員との意見交換会

令和4年1月9日（日） 松葉コミュニティセンター

	主な意見と質疑応答の内容
1	・遠方の方だと平台のファミリーマートの方から通学している生徒がいると思うが、その辺りの対策については、どのように考えているか。 ⇒統合に当たり通学距離が遠くなることに伴い、スクールバスの導入を検討する場合があるが、当地域では、一番遠い地区で通学距離が2km程度になると把握している。通学距離が4kmを超える場合にスクールバスを導入するという基準があるので、当地域においてスクールバスを導入することは、現在のところ考えていない。通学の安全対策については、今後、検討していく。
2	・施設一体型小中一貫校は市内で初めてということだが、運用面や課題を整理する上でどこかを参考にしているのか。

	⇒以前、小中一貫教育に関する調査を行った際は、つくば市の事例を調査した経緯がある。ただし、つくば市の場合は大規模な学校規模になるため、当地域の現状とは異なる部分がある。あまりにも大き過ぎると、学校運営上の課題がかなりあると思うが、当地域の場合は、大規模にはならないと想定している。ただし、運動スペースの問題など、子どもたちが活動するスペースをどのように確保していくというのが課題であり、今後の施設整備の設計の中で検討していきたい。
3	・跡地利用に関して住民との話し合いをするという趣旨の説明があったが、その予定はあるのか。 ⇒小中一貫校の話が始まったばかりなので、具体的なスケジュールは、まだ出していない。まずは庁内で、行政需要がどのくらいあるのかを考え、次のステップとして、地域の皆さんの御意見を聴きながら、並行して民間の意見も聴いていかなければならない。
4	・統合についてうんぬんと言うつもりはないが、避難所とか、運動場や体育館を使ったサークル活動とか、小学校がある間はよいが、その後について具体的な検討はしているのか。 ⇒子どもたちが学んでいるところに跡地利用が先行してしまうと難しい面があり、デリケートな問題だと思う。設計・建設の期間があるので、遅れないようにしっかりとスケジュールを組みながら決めていきたい。避難所については、危機管理課が避難想定を出している。大地震の際、人口割で按分すると、長山中学校区の場合は、600 人程度の避難者が出ると想定される。ただし、あくまでも按分の結果であり、この地区は地盤がしっかりしているので、家屋自体は大丈夫であろうと思う。600 人のうち、7割5分とか、5割程度の避難者が出たとすれば、今の小学校が無くて、コミュニティセンターと新しい小中一貫校があれば、何とか飲み込めるというような想定はできている。 ・デリケートな問題ということは分かるが、閉鎖と決まったこと自体がデリケートな問題なので、そのことを踏まえて、段階的にでも話し合いの場を持たないと、ある日突然、こういう形の説明会が開かれ、半ば決まっている内容について説明をされるという立場になる。だから、できるだけ早く話し合いの場を持ちたい。
6	・松葉小学校が無くなったら、コミュニティは松葉小学校区ではなく、長山中学校区になるのか。 ⇒今まで統合した学校の前例では、長戸小学校については長戸コミュニティが残っているし、北文間小学校については北文間コミュニティが残っている。今の流れからすると、残るという流れになると思う。ただ、これから子どもたちが小中一貫校に通い、行く行くは卒業して社会に出ていくということになると、一緒に学んだコミュニティがあったとしたら、別々ではなく、一つでいいよということになるかもしれない。
7	・我々はここに住んで30年が過ぎているが、議会で決まったということで一発で決まってしまう。それは避けてほしい。議会で決めたとは言わないで、その前に時間を掛けて、話し合いを持ってほしい。 ⇒跡地については、御要望として承った。子どもたちの教育の質を確保したい、高めたいという考えについては御理解いただきたい。 ・それについては賛成している。その後をどうするのか。いろいろな課題があることに対して、どうするのかということになる。是非、早いうちに話し合いの機会を持ちたい。
8	・少子化で児童数は減っていくという推計だと思うが、人口を増やす努力なり、若い家族が移住してくるような努力なり、市としてどのようなことを考えているのか。 ⇒子育て世代が住みやすいように、移住の補助金や多子世帯の補助など、どこの市町村でもやって

	いるが、本市でもやっている。市としては、せめて今住んでいる7万6千人くらいの方が出ていか ないで、ここに留まっていたくという施策の方が大事になるのではないかと考えている
9	・地域の皆さんは、松葉小学校が統合された後、どうなるのかと思っているので、なるべく早い機 会に説明なり、意見交換の機会を設定してもらえるとありがたい。

3 政策情報誌による周知・意見募集

長山中学校区において施設一体型小中一貫校の設置を目指す市の方針について、龍ヶ崎市政策情報誌「未来へ」（令和4年3月21日発行。全戸配布）により周知するとともに、同方針について、市民からの意見を募集している。

4 まとめ

保護者及び地域住民からの意見及び質問の内容については、おおむね次のように整理することができる。

【保護者の意見・質問について】

施設一体型小中一貫校の設置を目指す市の方針そのものについては、肯定的な意見が寄せられた。

主な質問としては、どのような特色を出して教育を行っていくのか、行事運営はどうなるのか、スクールバスは出るのかといった質問が寄せられた。

また、児童生徒が伸び伸びと運動や部活動ができるよう配慮してほしいという要望のほか、ICT教育の推進、幅広い年齢層の交流などによる人間関係の構築やカリキュラムの導入といった要望が寄せられた。

これらの意見・質問の内容については、今後の施設整備の検討に生かしていくとともに、特色ある教育をどのように推進していくか検討していくものとする。

【地域住民の意見・質問について】

保護者と同様、施設一体型小中一貫校の設置を目指す市の方針そのものについては、肯定的な意見が寄せられた。

地域住民から寄せられた質問の多くは、松葉小学校と長山小学校の跡地利用がどうなるのか、跡地利用に関して地域住民との話合いの機会は設けられるのか、小学校が無くなるとコミュニティセンターはどうなるのかという内容であった。

特に、跡地利用に関する地域住民との話合いの機会を設けることについては、松葉・長山地区ともに強い要望として寄せられたことから、庁内の関係課が連携し、意見交換の実施に向けて対応していく必要がある。